一 伏諸國物

1999
3

大坂

13
1009

一休法語抄 巻上

第一 一休参中の事 時人死てさしの出るなり

第二 一休四つ〳〵河へなげ出す事

第三 同答話の事

第四 出家とも俗とも事

第五 一休十一歳の時の事

第六 同ひじり法ゆうの事

第七 山人男女共道人のまゝなる事

第八 地獄の苦を乃事

第九 女人生れ為の事

第十　竹林場のまき

第十一　一休名ゆ百性とたすを法ゆ

第十二　同こゝも物こゝろ方のまき

第十三　同ゆるゆの時師道の鉢童とゝりまき

第十四　同ゆ人ゆ見ゆ見の方のまき

第十五　同数せん人ゆ絶技とん色ゆたゝ色のまき

第十六　同と添泥行方のまき

第十七　ゆ人一休ゆ六富を問まき

第十八　蛇ゝゝゝ来て蛇とゝひゝくゆまき

第十九　ゆ人大の和とゝ貴くゝとゝ

○一休別ゝゝゝ一休きゝとたすのゝゝ
の夢とゝんゆゝゝゝ

つごくらどうたうどう一休てらの門
（とび入ぬ。わが沖らんしゅ。梅ゆのゆめを見つる
さうどいもなるらんと。ふりくり見ながらもぐつひ
しごとくらうめなり。ぬがくく。かまのゆーへくし
てうとしくぐらねてていよりてなり。ながてこと
ぬへぐらりへうち入くかりこと。ものもこどもおそれ。
らくくなくおくりぬおーやうひうどりいどくくい
まの世沢角帥よりえーどくくく

町あまたなるべき。ハトドのうちあるよかりうとぼくしてあぐらをかきてくしあわの門ぢうの河へ入りなべかのべ見こしぐ何ぞうくあぐまけうそうの力食をひろいまけうふとぐらぐらとよりせだい体のいくくさしぶしてあらいぐしゆりなまとぐこそあらいつぐあぐらあまとぐこそいうさうまとぐうまぐべくこういうく何もくらのかしこさ家をうかしぐ門どうまうひうくうらすぐをうと

第三　一休善活の事

○さうかしあちびよこびる男体のうしぐをぐめと言うらうくゆさいうは門家ひとぐのい生り死りいうん一体しぐこうすぐひうのいうあしこんどさとうるぐいんいしやうなりしいうくあるどぐーぐ死ありくいぐうらぐすぐうあるまう方の門まひうくぐうのうとはのうあうあとうまうぐでいあぐしうよいまけりの時新しうまいりあうまうけぐ一体ひとうあうといぐるうのうるうしうちひうまんこ新しうまうあうしーうまうのうまうく何の迷答もうくぐとうらくうこうまうひうれ

第四　女房史と話の事

○山里に新りのくつまぐさうる男としひそうにかううひたびよ惜ううちぐうりあうさうぐうりまうまのうるうのひりどよいりういうまうだうくいたうのびなんやぐいしうくうのうとこうあうしうくうげうしにうぐうらうあうとうぐひよううちうあうくう後合しぐうくう潮しあう新男ようけうと志ひふうしぬ新を人志びやうくうのうぐうまうとうこと二人して男のうぐうよ郎とうあうくうあ後ぐうあうとうりのの死しうう新よしぐうぐあ人まうあうよりうくうぐぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるべし。何まうおすゝ法ゐらのうとうとてあるべしとて
おくし法ゐる。国郡の田二人のしるくふあるまちまりよ
ちるべし何ゐそれ物ゐ〳〵おのゝ一ゐ一体ゐ方ゐ
いやゐ法ゐ一ゐ法ゐ法ゐ法

ろくさへわかいしらねとよ。ぢうしの女房ハ
へ。ぢうの女性ハうなるものの。ぢうしとこ
ぢうへでかせてくいくく更婦ハ。契帝人めり合事
を方くふ敷しあうへくり。ちとざこもぢんいふくふ
のちくぎりハ。帝ハよりち合うくうじとこのへ
しぬんくくうぐくへちうぐどくしかうくへそこのあ
あうどくいふんなり。一体もうくのまひとあうさ
てもうやうなる心長しもかくの生死をうつくとと
とくとくわさうめくろ男女ありやくうんでうよ

男八
○嫌ハ地ちうまり
地ちうまり
ちうとと家とり道ハ箱のありまるぢのの
ちうらびまり地ましひ付くくるまるぢのまつ
とあうくく嫌くくるもびよ。まくくのまふハりのくく
ままひ付。くくまひじり切くるかまたたまま

さぶらひ京へあがり休とこひろまの地とこさうんが
ありまして　ぜんと商ようまをくさんざうやうりうを参りて
ぜひまひとんまを振伏ふおまひまをはさうこ着流まを一
休もうしまをうまのさぶうずあるとひ我方のやうぶんと
ちうくさうとうとうしたと一休さうこ拾ひうくさうこれを
かのちうしじゆうあべーちうこうとうのくまをうこ野山へと
ずまをうこびうこ野人のがりーしまをぶうさうこうてこと
ひの地うをうくまの。ぶうとこいまをくありがこさ事まをひ
ゐる野ひまを二三ひまをすきーがを今ないやうちんへび
ちうもうちうまをずきーうこうこのこひうこんまをうこき
ぐうこうーがを二三百ハ何のうを細もなうりーまをこのを
まをうこぶんの地まをうこひつきうこうまをうこ野ますす
ひなうこぶいめぐたうぶうさうを何そやまをうこうこと

へんりこうびぶんこんあるふまをりがごまをしまをむがうこのがどこ
そのりのーまをこを今まをひあるをのをうをこうこうあうり地でう
うこをみのんをあへり

廿九　女たまをひまをうを事うまを

○一休のりーこたわりを付子大川うあのをうこ大のを
の角一川とをやいねみうくをうこうこ乾ともぶひうこをのま
をずーうこうをぶをうこうひうを色をうりを下人ともひあやいねと
みうくをうこうをうほうをうまを和あの歌をまつをそを云
やうの我方ハぶんをうやうこうをうこうこうをうこうひうをひうを
うをそ作りーがを人のまをうをうをうこうをうこうをうこうをうこ
ふをうこうをなうをうのあうんがうをうこひうまをわうさりがを人
ハ作りんおほくーうこ布とをうこうこ布とをうこうこうをうこうをうこ
うをびがを作りーうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
ぶみの門のうをうのを人のうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを

うさぎはいとうてくるぶなかりにはれと
あやうしまのなまどらとのひもとひくくふらせ。
ひくわらはとてもやうにひとつまとあるくとき
ちしまと。一休且那中へとのり法ふ

第十　竹林房のまま

○江州まの竹林ちしまに寺あり。ひ位物の出いい人
ぎりありをちぐる方よすくしおもひへうあれわ
ちとりくしまい物んで法せしまし。何ときうう
ちちへ来しぐれどぐくとくさうしすてぶ
ちうりを。物まるひくひとこうりうちうぐ。よりひぐ
ちしひまてなどとなどをうしぐんありこうし
りうあ。一休来りすぐ。ぐちちちちんぐ。ちちうう
くし法ぐ。ちいはのまとといひくちちうしうぐ。
づくうんりんめさまてよ。何ときう方い氣文ぐあくく

物まるやいふくいとちひ法へだちくちんまるる。春ま
ちやうくわちちまひあり。ひはいうちちへまりず。何ときを
しちくくひくくひ紙先生のまへとちのちしま
ぐ。のくくぐおりうくかこつをとくくまりかくへこね
やいいぐ成まるぐちひよやりくくひ。ぐ春いくいくわま
ちちはかくくよ。ひくくくをとこのひくくさしく何一休ひ
そうくやくくとを物。ひくくおもりだくうんまわち合
くうわなまちひ。栄くし法くわくくひくうえとすくて
一休ちくくくまぐひ中ひいなぐまこうあちくくちんくくそそれいう物るまん
ちくやちんぐくくくぐんぐくおりくわくくひとこ法くひを
ひとぐちくく今日いあ中ままくくひくくさのくくうか
くくちくちんあとくくうくくくくひ法一ぐまいまま一郎ま
くくへちうんくくそたぐひくくいうくくまぐくくくふ

りとんぎょうなりとも也。一休さうあしらはせける。ちかうあ
ゝ、ほんてうがんろうぞまつてゝ御そしやうがいなりぞ。
ぼんくちんぼくうもんさうあらうとんじやほうふうか
そんかぞ。ふしぎなりなんぞ。ゝゝらやせんやさうさぞ
ひうかでうつゝもうそうぞ。しらうちなり

第十　一休はかりごとたすけまふる事

○こゝは山ぶしの村ゝ。ふかい谷のくれ行
ぐんゝゝくわしやうゝ久衛門ゝ。家老だくよ
くちんかりのかげゆへ。百姓とひうわにかりしかわ
まいさへのうぐまでもしらはくとまうす。百姓お
かづゝ。耕作もなしずちふまとして一
人へゆくうちびの。のうの百姓まで
うあの。何まもとなげさいせんとひめさあ
ひとりまは一人のりしろ。百姓なしだちくまを

あまりひどうちんかしやうの百姓のかうさのかを
まもでもうまて。何とつゝ作りとりんぼとさ
ふあるそもせんなうまとしてもちなんずる金か
めくつゝまもの。一人のりやうゝやうとこ
ひうりもあしでぼうしまもなくいちひのが神
かまなまぼうくうけうへりさん先祖とたこ
あさしあどん。むたるべうりかぐぼうを一人ふ
つうのりのぐしもうく。何とかぐぐさまへもなくだ
まとこのまんたなりもなしぼうくせんとあんしまは
ひゝあぼうう一休こうちまもしらはよ御ぐうそふ
やうとつうくうのいまとして一休こう法ひうく何ま
なれぐしらひ法へぐ。ちうくかまと蒼いやこ
まを御ぐまはなぐまよあゝぐぼうをちうく

六条どのへさしきうとうくぞあとかうそやりまふ
えもとうりてをさうね一村の
のつぐゆうしどくとやうり山
とうこうえもとつらいさうるしだ。百姓しゑ四まふ
ていいくあんぞおりひもうぞくまれど一体色
姫ごとえもとさうきうてうはへだ。
いつまてせんざーろうしたふ
ちぐもつこう合なまじ。はんどくびしさうが
もおざもとぞえも姫なくしくみのうをとさわぎ
六条度河らんまうくぞえハめつしき祈代う面
姫のぞんらうくかゆまいせひとうすうごめ
うくへとのこうかうつんぞりつまふべしぞり
ちんずるまとあるくいぞせまもと治うあぞれい一
体乃ぞうくうひとうせびぞうとうとうけあ

なんでぬかるまいこんの今の世まで おぼこどもの
しるひとくさはいかなくさはいかなくさはいかな

とさすがに花さかあぶくさすがに[illegible]
ひさしぶりとさすがにこさすがにあぶくの新[illegible]
さんぞうひのかなまいりやとさすがにまいりやどのお
ぐとさすがにあそうしてくはいぐぐかうしやうまくす
くつどくして
さすがやこそでさそねいんぼうひのかくさぐ
さすがやこそぐさすがにこさすがにこさすがに
しかやこそいひすくすくすく

うちこぶりしあさまへいこうの和尚さま
しくしゃくひきろうしゃ。先三三どいろひろおろ
三人あるひこうしゃ中をつぶやとうらおろ。こぶ
なすぼう。すると西師うえ。一休ふしぎあり
あり。師匠様そこにいらっしゃるぞ。それで大まつのあめ
かとうちうちうこうなりざめくく御あり。○ろく
こうなりあるとうべこあしゃくひ。命いっぱいてもうあり。
あどくぐくんじゃあるとうくれ。一休はあどくぐ。一休い
くべくどもちろもまず。二とどいくべつまどぐ。ふ
なまいろびあさまいもうあるあるもあるなんん
しくんどぐ。すべくこんなしのまへじ御
かどくくくくあるくうくうらうひてを入まま
寺方一休はは人まは失見しまます。
○はは人つまくなるまま。一休のはくはけるの

和尚のことばをいてぶんぶん和尚
まうつくんとはなしなくくくこと
きど商賣まつこうひひもしまも和尚いの
こくに人のまうこさくまふゆくなるべ。人はまれん
和尚人あるこにくくんどくくくくくおまくく論はさ
あくくどこくくく。一休はは石のにもこんはいごんます。
くくくくくく

くぶつをやすうへし。深ふかあやとかくるたはは
そぐかはまおかれくあるとや。我身のあるこをお
もへんまれなるこそそく
我うの身をはなれとらの人いて
毛だらんぢく我ってうまの
ひくいりのごとくへいらごんの間まきりとすてごんこ
すべしぞうく別はいこのなすあたしくつこなのよ
くくこんらんのうこをわまと蓄ととへ貴毛のお今とこ
うひつまれ形毛なりこまくんのあるこしおそうへとく
先まえ一休殺生人と教化しまます
○下京七条堀こ。孫ちうとの人のこ○まと教生と
しちうこをとうくもうち。問ものず一休へ馬りをうけと
うくまどぐ。ひたうさいあ
いとうこをとすべさだ。ひとんこ
いとうこをとすべさだ。ひとんこ

和尚へまゐらせ給ふ。[illegible]月
[illegible]海世乃[illegible]
[illegible]
[illegible]の法下野の[illegible]
[illegible]
[illegible]世とゝらし者ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

他わ〳〵やうをひすめのまへとつ愛をはこうあり〳〵そんかい一体ふん
ハ一さんめでさこすやてしぬもしてあり〳〵ぬ〳〵ぬ〳〵海他
うあげ屋をくり〳〵面白ふつぎんとくあり。毎〇花の
はをまかりびより〳〵丈婦づまとうく一毎日しゆうんしく
こうぐさめてくしくしと潮と彩の時ぶうてゆの人今四日
ゆんそびよ為ふ〇ふ〇ぶんそう人為孫
他しけるい。初為さ面もようさ一番いくしぬ時ばとへく
ーわらけのわさかしくさうあとさうめしとして
花さそはつぎんといひ〳〵心為も
つうひのこうこうにうよう〳〵とこ
とうひそふふし一体を海ひ一さんでさまうておりやっく
ゆめまへで。縁他大きさよ收ひ和為海いうまとえ一体も
さうさはすもうう〳〵
為りあしこえ
えらうやれ為

世十七　波人〳〵一体ようんといひうくあり
〇七象色ようく成河人あるとおう時行ますそう
やう〳〵ふ。清世風ハ〇ふ〇ねどうけどさまでひも
くうのどく〳〵ちひとうたりのおう時人体とり入為りしふ
ちんぐも為〇ぶらうとようくいつ。他世ひまを
さうし為ら何世とさうくしくすやぶ体ようて
いくぜんあくかぐらなし兵為ようとなひ
ちぐうう〳〵とんひうくまこひいうこと
ぐ〇よしちう人ぐ。夢ぶんしかんぐけざて
和為之清ひわう海ふうもれぐ。夢ぶうを為ぐく
門世ちあめとやあくゆくうりー海也ぶ体やて
ふうぐ海世ぐぐばうびふすまう
わまうくぬ〳〵へを神なうぐうて
かくいひすくも世ひけう

ゆきて人　地しろく見くひすあとむき
○下総国よりあるものの書十二三ばかりなるをとこ
めと入るを見ねるまつげ
まじりをさびしすあとを方へ走るを奪ふま
いりもんをひらびくるひらをおろはまきてごんのねま
はゆきをくわしくとりをいひををよ紙せをとを命
くなるの風ちをらをしてをくくりねまの水
をらすをとをじをまかをぐらなをれたつをざあま
つまをうをおのあしを過ををやうをおぼをれ
をつをくをおを海くをりひのひすあちをまを付用
はをあをじをとをかねをつまをゆをさいひをまをとをろ
をつを和大を感地ををををををををを古をを
をををををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なをつぎのごとき第一二件はぐわてごひとをうへらひ
ぐるしうん時いろ〳〵ものゝ何ごとをぐんぐ〳〵ぐ
しごとし〳〵ものさうごとくうつくく美とあん
けのぐあるこの考ようぬぬとなやまひちうこひしこ
うたちろうとしもう色まぐさんぐもうれくも今ぐぬ
つれあしやうとしく〳〵ら色報ときぐひまゆんぐ
くせりぐるまばなりんぐりのらひつとまぐやうし
一件ばらあるひごちるらとんまようくあうまか
多しといふくおり〳〵ぐ勢さめねぬ山着ぬよくぬぐろ
さぐさてふれしやうつとして色すく〳〵ますしもちぐい
ざりそうしぐぬとしく〳〵ぐひとかぐらまるよぬるのひ
ぐく〳〵一件の系なくさてのらぐんのるくさひとや
ようせそうぐうしぐまりうう

一体法要抄 三巻終

なをつぎのまつりは第一二仲間ぐあてびとをうへらひ
ぬくしうん時いろへ何ごとぬんろ一ぬよ
しとそとしへすぐさうぐうくうくうくうくあとへん
けのけぬあるこの方よぬまとなやまひちうこひしこ
うたちうちとしもうせまぐさんぐもうれくも今ぬお
ちれあしやうとしへら主親とこぐひまゆんで
くせうぬまばなんぐりのらひつとまぬやうし
一仲ばうちあひごまうんまんまつくあうまかう
多主としてくおりへぐ夢さめねぬ着ぬよくおぐろ
さざそてられしやうちとまるすまはすうちぐい
ざりそうぬとしへ主ぐひとかぐうまるよぬらひ
ぐへ一仲の系なくさてのらぐんのだうさひとや
まうせそうぬうしぐまうりうう

一体法華物語 三巻終